

厚生労働科学研究費補助金
難治性疾患政策研究研究事業
運動失調症の医療水準、患者QOLの向上に資する研究班

令和2年度～令和4年度 総合研究報告書

研究代表者 小野寺 理

令和5年（2023）年 5月

目 次

I. 総合研究報告	
運動失調症の医療水準、患者QOLの向上に資する研究班	1
研究代表者 小野寺 理	
II. 研究成果の刊行に関する一覧表	18

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患政策研究事業）
運動失調の医療水準、患者 QOL の向上に資する研究班 総合研究報告書

小野寺 理¹⁾，
新潟大学脳研究所 脳神経内科

研究の目的：

運動失調症は、遺伝性脊髄小脳変性症、孤発性（特発性小脳失調症(IDCA)、多系統萎縮症(MSA)、遺伝性痙性対麻痺など多くの疾患が含まれる。病態、症状が各々異なり、個別の対応が必要である。本研究班では、実態や自然歴の解明、診断基準、重症度、診療ガイドラインの整備、疾患レジストリー体制の整備、企業治験、医師主導治験および複数のAMED研究を実施してきた。本研究では、これらの成果をさらに発展させる。特に広汎型のポリグルタミン病や、潜在性遺伝性脊髄小脳変性症は、遺伝子治療、核酸治療の時代となっている。それ故、治療に伴う諸問題への対策が喫緊の課題である。研究期間に、次の8項目について推進する。①小児例を含めた実態調査、②発症前診断、早期診断システムの確立、③失調全般および疾患毎の症状評価方法の確立、④欧米研究組織との連携を強化し、国際治験推進の基盤を作る、⑤既存の薬物療法、リハビリテーション療法、進行期治療方法の標準化、⑥早期診断、もしくは重症度の判定に資するバイオマーカー研究の推進、⑦生体試料研究の基盤整備、⑧既存レジストリーの拡充整備、である。①、②の成果は、遺伝性疾患の核酸、遺伝子治療に於ける、発症前診断等の倫理的問題や、経済や社会的諸問題に対

処する上でのプロトタイプとなり、厚生労働行政に、治療体制整備、疾患のスクリーニング体制、治療前後でのカウンセリング体制などにおいて提言を与える。①、③、④、⑥、⑦、⑧の成果は、企業治験を推進する波及効果が望まれる。また⑤の成果は、希少疾患に対するリハビリテーションのエビデンス作成に資する。既存レジストリーの拡充により、平等な医療機会を与える体制が整備され、難病施策を平等に広めるプロトタイプとなりうる。小児から成人までを対象とするため、難病の移行期医療提供体制についても成果の活用が期待される。研究は3カ年に亘り継続して行い、各項目間の連携を図りながら、関連するAMED研究班との連携を強化し推進する。

研究結果の概要：

①小児例を含めた実態調査

小児期に発症する脊髄小脳変性症の中で日本に比較的多い歯状核赤核淡蒼球ルイ体萎縮症(DRPLA)について、長期予後を検討した。対象は14例あり、乳児期発症例2例、幼児期以降発症例は12例であった。けいれん発症年齢、常時臥床状態になった年齢は、CAGリピート数と相関を認めた。小児期発症DRPLAは臨床的に重篤で、予後が悪いことを確認した。

小児の小脳低形成と小脳萎縮は鑑別困難なことが多く、その原因も多岐にわたることが知られている。遺伝学的解析により診断確定できれば低形成か萎縮かの鑑別に役立つことが期待され、また予後改善に有用となる可能性がある。小児期発症の小脳低形成あるいは小脳萎縮をもつ患者のいる176家系について全エクソーム解析を施行した。

2010年以降、NCNPで診断を行った小児期に発症した小脳性運動失調症状を呈した症例について、発症年齢、主な臨床症状、頭部MRI画像所見、診断確定法などについて診療録から後方視的に調査を行った。小児期発症の小脳性運動失調症状を呈した50症例のうち、家族歴があったのは1例だけで、残りは孤発例であった。小脳性運動失調症状以外に、知的障害・退行、てんかん、不随意運動など多彩な症状を伴っている例が少なくなかった。このうち原因診断が確定したのは32例であった。

組織球症にともなう二次性の運動失調症を呈した28歳男性例を報告した。組織球症の診断に必須な、生検組織における組織球の確認は得られず、最終的に同疾患に特徴的なBRAF遺伝子の遺伝子変異を検査したところ、確定診断が得られた。

脊髄小脳失調症1型(SCA1)に対する遺伝子治療の医師主導治験にむけ、基礎資料となるSCA1自然歴を明らかにすべく自然歴研究を開始した。7名(平均年齢51.6歳)が登録し、2名は36ヶ月目まで評価を完遂し、3名は30ヶ月目まで評価を行った。登録時から30ヶ月目までに、SARAは 11.6 ± 1.1 から 12.8 ± 1.4 、6分間歩行距離は 344.6 ± 57.5 mから 256.2 ± 133.2 m、6

分間歩行直進時の左右平均振幅は 0.0414 ± 0.0091 mから 0.0576 ± 0.027 m、9-hole peg testは 37.18 ± 9.21 秒から 46.59 ± 17.58 秒にそれぞれ悪化した。

宮城県内の家族性脊髄小脳変性症家系を集積し、その遺伝学的背景を明らかにした。2012年4月から2021年9月に遺伝子解析した174家系を対象とした。臨床表現型と本邦における頻度を考慮した上で疑われる標的遺伝子を絞り、常法通り末梢血白血球由来DNA試料を用いてPCR法および必要時サンガー法を加えて疾患関連変異の有無を検索した。

高齢化社会におけるSCDの病型分布や臨床的特徴を明らかにすることを目的とした。鳥取大学で1998年4月～2018年の20年で診断されたSCDの分布は20年前の調査と同様にSCA6の頻度が最も高くSCA3の頻度が低い。鳥取県主要な施設でのSCDの有病率および病型別頻度の解析でもADSCAの遺伝型別頻度はSCA6が最も多く、SCA31がそれに続き、この傾向は1998年と不変であり、高齢化を反映してやや増加していると考えられた。最も頻度の高い純粋小脳型SCD(SCA6・SCA31・CCA)1の、非運動症状も含めた臨床症状の特徴を把握するために、純粋小脳型SCD患者が通院している県内の主要な病院へアンケート調査を行った。

徳島県における脊髄小脳変性症の実態を明らかにするため、徳島県の小脳失調症の患者275名において、SCA1、SCA2、SCA3、SCA6、SCA7、SCA8、SCA12、SCA14、SCA15、SCA16、SCA17、SCA31、SCA36、DRPLAのスクリーニングを行った。

脊髄小脳失調症は臨床徴候から純粋小脳

型と多系統障害型に分けられる。純粋小脳型の中にも複数の疾患が混在しており、診療を複雑にしている。東京医科歯科大学において、純粋小脳型 44 症例の遺伝子変異に基づく疾患頻度と臨床経過の調査を行った。

東北大学にて、常染色体潜性 (劣性) 遺伝性疾患 *Cerebellar ataxia with neuropathy and vestibular areflexia syndrome* (CANVAS) の新規家系において、同胞 3 例の罹患者、および非罹患者について遺伝学的検査を行い、診断を確定し、臨床・病理・遺伝学的特徴を検討した。

また CANVAS は RFC1 イントロン領域の AAGGG または ACAGG リピート配列の両アレル性異常伸長により発症する疾患である。本研究では各々のリピート配列伸長を有する剖検例の病理学的検討を行った。

南九州地域における遺伝性運動失調症疑い症例の原因未同定例を対象に CANVAS の変異スクリーニングを行い、臨床的・遺伝学的検討を行った。遺伝性運動失調症疑い症例 1289 例について、SCA1, 2, 3, 6, 7, 8, 12, 31, DRPLA および GSS (PRNP, P102L 変異) の変異解析を行い、陽性例 330 例を除外した。陰性例を対象に、RFC1 遺伝子の解析を行なった。病的と報告のある (AAGGG)_{exp}, (ACAGG)_{exp} と良性と報告のある (AAAAG)_{exp}, (AAAGG)_{exp} を対象とし、repeat-primed PCR にて行なった。

ホモ接合性の異常伸長を認めた症例については発症年齢、表現方型、画像所見などについて臨床遺伝学的検討を行なった。また RFC1 遺伝子関連スペクトラム障害の臨床像を明らかにするために Charcot-Marie-Tooth 病 (CMT), 遺伝性感覚ニューロパチー (HSN) 症例に対しても同様に解析を行

なった。

多系統萎縮症 (MSA) は孤発性疾患と考えられてきたが、家系内に複数の発症者が存在する MSA 家系の報告が散見される。さらに、同一家系内に MSA 症例とパーキンソン病 (PD) 症例が存在する家系も報告されている。

MSA の遺伝的な危険因子として、COQ2 の機能障害性の variants やゴーシェ病の原因遺伝子である GBA の病原性の variants が報告されている。一方でこれらの因子は、PD の遺伝的な危険因子、あるいはその可能性があることが知られている。同一家系内に多系統萎縮症とパーキンソン病を認める家系 (MSA, PD 家系) について、その臨床的、遺伝的特徴の解析を行った。

多系統萎縮症の告知において、診断の不確かさの問題があり、また悪い予後、突然死のリスクを伝える必要性があることから、患者への配慮と説明責任の間で葛藤が生じていることが予想される。この点を明らかにするために、日本国内で多系統萎縮症の病名告知に関わる専門医を対象に、オンラインアンケート調査を行った。

脳ヘモジデリン沈着症の本邦における治療実態を中心に調査した。アンケート調査を改めて行い、過去の治療実態との比較を行った。

②発症前診断、早期診断システムの確立
自己免疫性小脳性運動失調症 (autoimmune cerebellar ataxia : ACA) の原因となりえる Sez612 抗体について、既知の小脳性運動失調症が否定された小脳性運動失調症のべ 171 例の血清と、コントロールとして健常者血清と変性疾患患者血清

115 例を対象に検討した。Sez612 を HEK293T 細胞に過剰発現し、fixed microscopic CBA 法にて確認した。また ACA の頻度について後方視的な解析を行った。

孤発性、成人発症で、緩徐進行性の原因不明の小脳性運動失調に対して、国際的には Idiopathic sporadic ataxia (ISA) という病名が使用される。これに近い病名として、本邦では 2018 年に、特発性小脳失調症 (idiopathic cerebellar ataxia ; IDCA) の診断基準が提唱されているが、自己免疫性小脳性運動失調症の除外は十分になされているとは言い難い。国際基準に則り ISA と診断した症例を対象として、自己抗体 (抗小脳抗体) の検索を行い、その臨床像を検討した。

SCA3 292 例、DRPLA 203 例を対象として、機械学習法の random survival forest (RSF) 法にて、CAG リピート数と発症年齢についての解析を行った。予測精度について、従来のパラメトリック生存解析法と比較した。

③失調全般および疾患毎の症状評価方法の確立

特発性小脳失調症 (idiopathic cerebellar ataxia, IDCA) の自然歴を明らかにするために独自のアンケート調査法を考案し、かつ Electronic Data Capture システムを介したデータ収集法を確立した。アンケート調査は、日常生活に関する問診を重視し、補足的な診察は立位・座位で可能なものとした (①屋外の歩行、②立位保持、③診察台に腰かける、④移乗、⑤日常会話、⑥階段昇降、⑦食事摂取、⑧靴下をはく、⑨排尿コントロ

ール、⑩最近の転倒数の 10 項目) とした。

また常染色体潜性脊髄小脳失調症 9 型 (ARCA2) の 1 症例で、重度の低リン血症を合併し、リン補充によって症状の一部改善を認めた例を経験した。

VR (Virtual Reality) を用いた計測手法により、運動失調を定量的に評価する方法を確立することを目的とした。群馬大学医学部附属病院脳神経内科に入院した神経変性疾患のうち、小脳性運動失調症 (遺伝性・孤発性脊髄小脳変性症と MSA) およびパーキンソンズムを主症状とする疾患 (PD など) を対象とした。また明らかな上肢の運動障害を認めない患者も対照群として 3 群間で比較検討を行った。目標症例数は各群とも 30 例である。上肢の運動失調を評価するため、ヘッドマウントディスプレイである Oculus Rift® とハンドトラッキングデバイスである LeapMotion® を組み合わせた装置を用いて、SARA における評価項目である「指追い試験」と「鼻一指試験」を評価した。両デバイスを組み合わせることで、VR 空間における被検者と仮想検者の指先の動きを高精度かつ定量的に計測することを可能にした。また手袋型デバイスである Hi5 VR Glove を用いて「手の回内・回外試験」を評価した。デバイスに内蔵されたセンサーにより空間上の手掌面の角度を測定することで、手の回内・回外運動のリズムや運動の規則性を定量的に計測した。上記のデバイスを用いた評価はいずれも、歩行障害が高度で移動困難な患者であってもベッドサイドで評価が可能であるため臨床上有用と考えた。

SCD 患者の構音動態を定量評価することで、その病態生理や神経基盤についての

検討を行った。健常群は発話時に規則的で円滑な口唇開閉運動を呈したのに対し、SCD 群は口唇開閉運動が時間的・空間的に不規則であり、SCD 群でみられた頻回な発話運動の一時停止が、発話の円滑性を損なう一因である可能性が示唆された。運動失調性構音障害でみられる発話時間の延長は、単純な運動速度低下によるものではなく、構音器官の運動が空間的・時間的に不規則になることが原因の一つであると考えられた。このような運動パタンの異常が、日本語の特徴である“モーラ等時性”の破綻につながっていると考えられた。

④欧米研究組織との連携を強化し、国際治験推進の基盤作り

DRPLA, 劣性遺伝性脊髄小脳変性症, については、各々国際研究推進について検討した。またメイヨークリニックとの国際共同研究で、SCA3 のバイオマーカーに関する共同研究を推進した。

⑤既存の薬物療法、リハビリテーション療法、進行期治療方法の標準化

CaV3.1 をコードする CACNA1G 遺伝子変異により発症する SCA42 の振戦にはゾニサミドが著効する。SCA42 モデルマウスおよび培養細胞を用いて、変異型 Cav3.1 による病態機序およびそれをターゲットにした治療について検討を行った。

脊髄小脳失調症 36 型 (SCA36) は、Nucleolar protein 56 (NOP56) 遺伝子のイントロン 1 における、GGCCTG hexanucleotide repeat (HNR) の病的伸長に起因する。SCA36 細胞モデルにおいて神経毒性軽減効果が期待される化合物を検討

した。

重度の角膜障害を合併し、角膜内皮移植に至った歯状核赤核淡蒼球ルイ体萎縮症の症例について、眼科的な精査と、歯状核赤核淡蒼球ルイ体萎縮症の角膜障害について検討を行った。

入院症例を対象として、脊髄小脳変性症に対する短期集中リハビリテーション治療による運動失調および ADL の改善効果が病型によって異なるかどうかを検証した。

遺伝性脊髄小脳変性症患者に対する、HAL® (Hybrid Assistive Limb®) 腰タイプを用いた在宅運動療法の有効性と安全性を評価することを目的に、探索的臨床試験を立案・計画した。本年度は臨床研究プロトコルの作成、認定臨床研究審査委員会の承認、臨床研究等提出・公開システム (jRCT) への登録と公開を実施し、被験者の組み入れと評価を実施した。

人工呼吸器を使用した MSA 患者の突然死の影響を評価した。2000 年 1 月 1 日から 2021 年 9 月 1 日までに死亡した長期入院例かつ気管切開・人工呼吸器治療を行った definite または probable MSA 患者 139 例を対象とし、診療録から後方視的に検討した。

ポリグルタミン病に対して、L-アルギニンが、その化学シャペロン作用により治療候補薬となっている (Minakawa EN. et al. Brain. 2020)。SCA6 に対する医師主導治験 (AJA-030 治験) を実施し、同疾患に対する治験薬の有効性、安全性を検討した。参加症例数は被験薬群 20 例、対照薬群 20 例、投与量は実薬群で L-アルギニンとして 0.38 g/kg/日 (内服量として 0.5g/kg/日) で、投与期間は 48 週間 (観察期間 52 週)、主要評

価項目は 48 週後の SARA 合計スコアのベースラインからの変化量とした。

Ubp1 遺伝子変異を原因とする遺伝性痙性対麻痺 SPG80 について、モデル動物の作成を行い、治療法開発を目的とした研究を行った。

⑥早期診断、もしくは重症度の判定に資するバイオマーカー研究の推進

MSA における自律神経障害のバイオマーカーとして発汗低下が選択されうるが、同機能検査は煩雑で客観的評価も困難である。近年開発された簡便かつ非侵襲的な皮膚発汗機能検査 (SUDOSCAN) を用いて、MSA を含む脊髄小脳変性症患者の皮膚発汗機能を評価し、臨床応用の可能性について検討した。

脊髄小脳変性症は、有効な治療法がない神経疾患群であるが、新たな治療法の開発が進められており、いくつかの臨床試験が計画されている。一方で、臨床試験の実施に際して、対照群を設けにくい希少難病については、昨今、リアルワールドデータ (RWD) の活用が期待されている。本研究では、当該疾患群に対して 2003 から 2014 年度まで厚生労働省が全国規模で収集を行ってきた RWD を解析することで、発症から長期の自然経過を病型別に明らかにすることで、臨床試験の妥当性の向上、予後推計のためのベースラインを構築する。

MSA の早期診断や、経過中の突然死の予測は困難である。早期診断では、MRI 個別脳容積画像の開発と社会実装を進めることを目的とし研究を行った。また突然死については、セロトニンの代謝物である 5-HIAA を髄液で測定するとともに、セロトニント

ランスポーター (SERT) の可視を進めることを目的とした。脳幹のセロトニン神経細胞脱落が MSA における呼吸・循環系に影響を及ぼすことが推定されているためである。

小脳失調のみを呈する初期 MSA-C の診断に有用な画像の特徴を明らかにすべく、頭部 MRI および脳血流 ECD-SPECT を用いて臨床的・神経放射線学的解析を行った。初期に小脳失調のみを呈し、後に MSA と確定診断した MSA-pc 群 7 例と、MSA 以外の小脳失調症からなる non-MSA-pc 群 5 例、パーキンソン病患者からなる対照群 7 例で比較した。

⑦生体試料研究の基盤整備

運動失調症に対するバイオマーカー研究基盤整備として、(1)生体試料研究基盤の整備、(2)早期診断、もしくは重症度の判定に資するバイオマーカー研究の推進を行った。R4 年度は(1)に関し検体収集の体制整備を進めるとともに、(2)に関してバイオマーカー研究に資する血液エクソソームの予備試験を行った。

⑧既存レジストリの拡充整備

2023 年 3 月時点で 2618 例の登録が得られ、DNA 2164 検体・Cell line 334 検体・血漿 730 検体の収集を達成し、2033 例で遺伝子検査 (一次スクリーニング) が完了し、910 例(44.8%)で病型を確定した。遺伝子解析の結果は、SCA31: 294 例(14.3%)、SCA6: 255 例(12.5%)、MJD/SCA3: 171 例(8.4%)、DRPLA:68 例(3.3%)、SCA2: 33 例(1.6%)、SCA1: 29 例(1.4%)、SCA36: 16 例(0.8%)、SCA8: 15 例(0.7%)、HD: 12 例(0.6%)、

CANVAS: 9 例(0.4%)、SCA17: 5 例(0.2%)、SCA7:3 例(0.1%)であった。病原性変異未同定の症例のうち、1058 例の網羅的ゲノム解析を実施し、838 例の解析データを取得し、59 例(7%)に既知病原性変異を認めた。内訳は、EA2: 13 例、SCA42: 8 例、SCAR8: 8 例、SCA5・SCA13・SCA25・GSS: 各 3 例、DEE32・GLUT1DS2:各 2 例、SCA11・SCA14・SPG8・DEDSM・familial Alzheimer disease・GM2-gangliosidosis・HADDTS・HMSN-P・Marinesco-Sjogren syndrome・NESCAVS・SMALF2A/B: 各 1 例であった。以上全体で 969 例(47.6%)において病型が確定した。自己免疫性小脳失調症疑いの血漿検体 29 検体の自己抗体測定を行った。

2014 年から北海道でレジストリ研究 Hokkaido Rare-disease Consortium for MSA(HoRC-MSA)が稼働している。同レジストリの臨床情報を基に、多系統萎縮症 (MSA)の新規診断基準、MSA criteria と従来の診断基準である MSA second consensus statement との有用性を比較した。

研究の実施経過：

①小児例を含めた実態調査

小児期発症 DRPLA についてカルテの後方視的研究を行った。

176 家系中 96 家系から疾患の病因となる遺伝子バリエーションが見出された(54.5%)。小脳低形成としては、Joubert 症候群の病因遺伝子バリエーションが 11 家系、橋小脳低形成が 6 家系、チュブリンパチーが 3 家系などであった。一方、小脳萎縮を来す疾患としてバリエーションが多かった遺伝子は

CACNA1A (8 家系)、KIF1A (8 家系)、ITPR1 (6 家系)であった。他に APTX (2 家系)、KCNC3 (2 家系)、他にも多数の遺伝子バリエーションが見出された。特筆すべきは、ARG1 と FOLR1 のバリエーションを持つ患者には治療法があったので、すぐに治療を開始し予後改善に役立ったことであった。

SCA1 自然歴研究は、自立して 6 分間歩行が可能な遺伝学的に確定診断された SCA1 患者を登録し、12 ヶ月毎の脳 MRI・脳血流 SPECT、6 ヶ月毎の SARA、三次元加速度計を用いた歩行解析、9-hole peg test を行った。

NCNP の調査では、小児期発症の小脳性運動失調症は多くが孤発性であり、家族歴から診断することはほぼ不可能である。特に純粋な小脳性運動失調症を主症状とする場合は、診断が困難である。

組織球症による進行性運動失調症は、神経内科領域では十分に周知されていない。診療ガイドラインにおいても、二次性運動失調症の鑑別疾患の中に加え、情報を十分普及させる必要がある。

東北大学の調査では約 9 割が宮城県内の医療機関からの検体で、家族性 128 件 (全体の 74%) のうち、97 家系 (56%) で原因遺伝子を同定した。頻度は SCA6 が最多 (18%)、ついで SCA31 (14%)、SCA3 (11%)、SCA1 (8%)、そして DRPLA (5%) の順であった。

鳥取県内のアンケート調査で最も頻度の高い純粋小脳型 SCD を対象として、臨床的な特徴を明らかにするための各種臨床スケールに関する調査をおこなった。対象は純粋小脳型 SCD 患者を診療している 8 施設とし、31 人について回答が得られている。

徳島県の小脳失調症の患者 275 名中、70 名において異常を認め、その内訳は、SCA1(3 名)、SCA2(1 名)、SCA3(17 名)、SCA6(33 名)、SCA14(1 名)、SCA15(3 名)、SCA31(1 名)、SCA36(3 名)、DRPLA(8 名)であった。

東京医科歯科大学での純粋小脳型 44 症例の遺伝子検査では、SCA31 が 15 例 (34%) で、SCA6 が 12 例 (27.3%)、Machado-Joseph(MJD : SCA3)が 2 例 (4.5%)、他に SCA36, SCA15/SCA29 が 1 例ずつ、原因未特定が 13 例 (29.5%)であった。変異に基づく疾患頻度と臨床経過の調査を行った。SCA31 症例では従来の報告と異なり、軽度の複視、外眼筋麻痺を 4 例で伴った。また SCA15/SCA29 では剖検が得られ、きわめて希少な例となった。

東北大学での新規 CANVAS 例はいずれも、ACAGG のホモ接合性伸長が確認された。3 名とも初発症状は有痛性筋痙攣 (20-40 代 下腿・体幹部) で、ついで発作性乾性咳嗽 (35-55 歳)、歩行不安定 (48-54 歳)、感覚障害 (45-54 歳) が続いた。55-59 歳時の診察においては全例で腱反射減弱～消失、遠位優位感覚障害を認めるが、認知機能障害、内耳関連徴候は伴わなかった。腓腹神経生検では大径線維を中心に有髄線維が著減し、慢性の軸索変性を来していた。また、血清 CK 値は正常～軽度上昇し、筋生検では慢性神経原性変化を認めた。MRI では頸胸髄に際立つ小脳・脳幹・脊髄の系統的萎縮を認めた。

横浜市立大学での CANVAS 2 症例に共通する病理所見として、Purkinje 細胞の消失、後索の変性、腓腹神経の大小有髄線維の消失、大腿神経の小線維を主体とする有髄

線維の消失を認めた。また後根神経節の神経細胞の脱落と Nageotte 結節が確認され、CANVAS の感覚障害が neuronopathy に由来することが示唆された。さらに ACAGG 伸長例では運動症状に一致した前根の萎縮や脊髄前角細胞の脱落を認めており、筋萎縮や線維性収縮、針筋電図上での神経原性変化は病理学的に下位運動ニューロンに由来することを明らかにした。

南九州地域における遺伝性運動失調症疑い症例のうち、RFC1 遺伝子の異常伸長を 15 症例で同定した。リピートモチーフは (AAGGG)_{exp} / (AAGGG)_{exp} 7 症例、(ACAGG)_{exp} / (ACAGG)_{exp} 3 症例、(AAGGG)_{exp} / (ACAGG)_{exp} 4 症例、(AAGGG)_{exp} / (AAAGG)_{exp} 10-25 (AAAGG)_{exp} 1 症例であった。地域分布は鹿児島 7 症例、愛媛 32 症例、沖縄 2 症例、大分・宮崎・福岡・島根 1 症例で、地域的な集積はないと考えられた。発症年齢は 49.7±17 歳で、(AAGGG)_{exp}/(AAGGG)_{exp} の症例でやや発症年齢が低い傾向があった。同様の解析を CMT 1476 症例に対して行なったところ、18 症例に病的リピート異常伸張が見られた。小脳失調と同様に地域的な集積はなく、さまざまな地域で (AAGGG)_{exp}, (ACAGG)_{exp} の病的リピートモチーフが同定された。また HSN における解析では 20/79 症例に病的リピート異常伸張が見られ、最も頻度の高い原因遺伝子であった。

MSA, PD12 家系において、MSA-P は 9 家系に認め、MSA-C は 3 家系に認めた。6 家系において同胞内に MSA 症例と PD 症例が存在し、5 家系において MSA 症例と PD 症例は親子関係にあり、1 家系において

は、MSA 症例の同胞と父親が PD 症例であった。これらの症例の遺伝子解析では、GBA の病原性の variants は、解析が可能であった 12 名の MSA 症例の内 1 名、7 名の PD 症例の内 2 名で同定された。COQ2 の機能障害性の variants は、MSA 症例 12 名の内 2 名と 7 名の PD 症例の内 2 名で同定された。1 家系で、GBA の病原性の variant である G202R が、MSA, PD 症例で共有されていた。

MSA の告知について、オンラインアンケート調査を行った。194 名に送付し、166 名から回答を得た (回収率 85.5%)。有効回答は 144 名で、83%の医師が病名告知を困難に感じており、90%の医師が突然死リスクの説明を困難に感じている実態が明らかとなった。

脳表ヘモジデリン沈着症について、82 施設から本疾患の患者を診察中との回答を得た。各病型としては、古典型 97 症例、限局型 32 症例、非限局型 12 症例であり、これらの分布については平成 29 年度、平成 30 年度のいずれの調査と比較しておおむね同様の傾向であった。治療の有無については、38 施設 (51%) の施設においてなんらかの治療を行っているとの回答を得た。具体的な内容としては外科的手術、リハビリ、止血剤の内服がいずれも 10 施設~12 施設とほぼ同頻度であり、一部の医療機関ではキレート剤の治験に組み込んだとの回答も認められた。介護保険などの社会的資源の活用の有無については 46 施設 (56%) が行っていると回答し、31 施設では難病申請も行なっているとの回答であった。

②発症前診断、早期診断システムの確立

Sez6l2 抗体について、新規に 1 例で陽性と判定した。陽性例の臨床像は、同例は 35 歳男性であり、認知機能低下が先行し、その後小脳性運動失調症が顕在化した。ステロイドパルス療法が施行されたが効果は限定的であった。また北海道大学神経内科における、2002 年 4 月 1 日~2022 年 3 月 31 日までの間に入院精査を行った新規の小脳性運動失調症例は 335 例で、そのうち免疫介在性小脳性運動失調症は 15 例であった。

小脳性運動失調症を呈する 310 名から、SPORTAX 基準を用いて、ISA 67 例を抽出した。これらは、既知の抗神経抗体 (mGLuR1, IgLON5, GAD, VGCC, neurochondrin, GluD2, Caspr2)、傍腫瘍性神経症候群関連抗体を測定し、陰性であることを確認した。ラット小脳未固定凍結切片を用いた免疫組織染色により 30/67 例 (44.8%) で抗小脳抗体が陽性となった。抗小脳抗体陽性 ISA 8 例に、免疫療法 (IVMP 単独 5 例、IVMP・IVIg 併用 2 例、IVIg 単独 1 例) が施行され、4 例 (各 2 例ずつ) において、mRS で 1 以上の改善が認められた。

SCA3 292 例、DRPLA 203 例を対象とした、random survival forest (RSF) 法にて、CAG リピート数と発症年齢についての解析では、従来のパラメトリック生存解析法と比較し、RSF 法は複数の評価スケール (RMSE、MAE、Integrated brier score) において、より予測精度が高いと判定された。これにより、SCA3、DRPLA の各年齢と CAG リピート数に対応した発症確率予測が可能となった。

③失調全般および疾患毎の症状評価方法

の確立

特発性小脳失調症 (idiopathic cerebellar ataxia, IDCA) の自然歴を明らかにするためのアンケート調査法を IDCA: 12 名、MSA-C: 13 名、SCA6: 10 名、SCA31: 17 名に実施した。現時点で 12 ヶ月後の調査を終えた患者は 16 名に留まっており、病型間の比較を行うに十分なデータが得られていないが、MSA-C では SCA31 に比較して悪化速度が速い傾向が捉えられた。

ADCK3 遺伝子変異から常染色体潜性脊髄小脳失調症 9 型 (ARCA2) と診断された 1 症例で、リンの腎排泄過多による重度の低リン血症を合併し、リン補充によって症状の一部改善を認めた。

運動失調の定量的評価について、症例数を増やし、9HPT も実施した。さらに臨床試験としての倫理審査の申請準備に入った。2021 年 1 月の班会議で報告し、多施設共同での研究とする方針も発表した。VR を用いた計測手法は、「指追い試験」と「鼻一指試験」における被検者と仮想検者間の指尖間のずれ (距離) を測定障害の程度として評価可能である。また「手の回内・回外試験」については手の回内・回外の回数測定や手の角度の経時変化をグラフ化することが可能である。今後は、臨床研究審査委員会 (IRB) への申請や対象者のリクルートを進めていく予定である。

SCD 症例 18 例を対象に motion capturesystem を用いた発話解析を施行した。SCD 群は健常群に比して、口唇運動の変位幅・運動周期のばらつき、運動一時停止回数が有意に大きいことが示された。SCD では、構音器官の運動パターンが時間的・空間的に不規則になり円滑性を欠いた

結果、発話リズムの異常や音の歪みが生じると考えられた。今後さらに多角的解析を加えることで、その病態生理や神経基盤を明らかにしていく。

④欧米研究組織との連携を強化し、国際治験推進の基盤作り

DRPLA, 劣性遺伝性脊髄小脳変性症, については、各々国際研究推進について検討した。メイヨークリニックとの国際共同研究で、SCA3 を髄液、血清で測定することを可能とし、その治験に向けて大きな成果となった。

⑤既存の薬物療法、リハビリテーション療法、進行期治療方法の標準化

SCA42 病態における電気生理学的特性変化の背景にシナプス形成異常が関与しているとの仮説に対し検討を行った。神経系培養細胞である Neuro 2a に野生型および変異型 Cav3.1 を発現させ、シナプス関連タンパク質の挙動および局在を免疫細胞化学的に検討すると同時に、Ca チャネルを阻害する薬剤を添加し、その変化を比較した。その結果、変異型 Cav3.1 を発現させると、シナプスのスキヤフォールドタンパク質である PSD-95 が核周囲に偏在し large puncta を形成すること、T 型 Ca チャネル阻害作用を有するゾニサミド、ミベフラジルにてこの現象が抑制されることが明らかになった。

SCA36 細胞モデルにおいて sodium copper chlorophyllin (SCC)、hemin chloride (HC) は伸長 GGCCUG リピート RNA を介した細胞毒性を低減した。SCC と HC は既に臨床適用されている化合物であり、それらの安全性、副作用に関するデータ

は十分に蓄積されている。ドラッグリポジショニングの観点から、これらの化合物は SCA36 に対する治療候補化合物として有望と考えられた。

白内障に対する手術後に角膜浮腫が増悪し、角膜内皮移植に至った DRPLA の症例を経験した。同症では、潜在的に角膜障害を合併している可能性があり、眼科的評価を積極的に行う必要がある

脊髄小脳変性症患者 (SCA3、SCA6、SCA31) を対象にして短期集中リハビリテーション治療による運動失調および ADL の改善度を病型別に比較した。また、各病型における周辺症状と重症度 (SARA、FIM) が短期集中リハビリテーション治療の運動失調と ADL の改善度に与える影響についても検討した。短期集中リハビリテーション目的で入院した脊髄小脳変性症のべ 77 例 (SCA3: 28、SCA6: 38、SCA31: 11 名、平均年齢: 57.8 ± 12.8 歳、罹患年数: 10.4 ± 4.7 年、MMSE: 29.0 ± 1.8 点、FAB: 16.4 ± 1.3 点、SARA: 16.0 ± 5.6 点、FIM-M: 69.9 ± 14.2 点) を対象とした。介入量は、頻度が週 6-7 回、強度は 1 日に合計 3 時間 (理学療法、作業療法、言語聴覚療法)、期間は約 4-6 週間 (37.2 ± 10.1 日) であった。SCA31 における FIM-M を除いて、各病型で短期集中リハビリテーション治療後には SARA (-1/-2/-4 点) および FIM-M (+14/+5.5/+5.0 点) の有意な改善を認めた。各病型における改善度 (%) を比較したところ、SARA では SCA6 と SCA31 に比べて SCA3 で、FIM-M では SCA3 と SCA6 に比べて SCA31 で有意に小さくなった。

脊髄小脳変性症患者に対する HAL®腰タ

イプと遠隔モニタリングを用いた在宅運動療法を実施する特定臨床研究プロトコールを作成した。遺伝学的検査で診断の確定した脊髄小脳失調症 3 型・6 型・31 型患者合計 20 例に対し、HAL®腰タイプを用いた在宅運動療法を、1 回 20 分、1 週 3 回、4 週間、合計 12 回実施する。主要評価項目は、Timed Up and Go Test に設定した。R5 年 2 月から被験者の組み入れを開始し、R5 年 3 月末までで、合計 5 例の組み入れと登録を実施した。

MSA 患者 139 例において、気管切開 53 例、うち 21 例で人工呼吸器治療が施行された。人工呼吸器装着群は、気管切開のみを行った群と比較して発症年齢が有意に若かった (58.7 歳 vs 64.1 歳, $p = 0.005$)。人工呼吸器を装着した MSA 患者の装着時の UMSARS part IV はすべて 5 (Totally dependent and helpless, bedridden) だった。人工呼吸器を装着した MSA 患者は、気管切開のみの場合と比較して平均生存期間が有意に延長していた (17.8 年 vs. 9.2 年, $p = 0.023$)。

AJA030 治験 (AMED 研究課題) にて SCA6 に対する L-アルギニンの有効性、安全性を検討した。予定期間中に全症例での観察期間を終了した。全 40 例のうち中止例は 3 例 (実薬群 2 例 (肺炎、肝障害)、プラセボ群 1 例 (同意撤回)) であった。重篤な副作用は、実薬群で 2 例 2 件 (肺炎が 1 例 (5.0%) 1 件 (実薬群、投与中止、死亡)、肝機能障害が 1 例 (5.0%) 1 件 (実薬群、休薬、軽快)) であった。主要評価項目の「48 週投与後の SARA「合計」スコアの変化量」は、実薬群とプラセボ群との差が -1.52 (95% CI: $-3.101 \sim 0.055$, $P = 0.0582$) と、有意で

はないものの、実薬群の方が低い傾向を示した。有意差を得るための必要症例数を本試験に基づいて算出すると、両群の SARA スコアの差を-1.52、SE 0.549、有意水準 5%（両側）、検出力 80%として、各群 41 例であった。

SPG80 家系の変異（c.535G>T, p.E179*）と分子遺伝学的に類似した変異マウスを作成し、新規 Ubab1+/E176Efx23 ノックインマウスを得た。野生型マウス（WT）（n=16）、薬剤 X 非投与ノックインマウス（non X-KI）（n=13）、薬剤 X 投与ノックインマウス（X-KI）（n=5）、プラセボ投与ノックインマウス（P-KI）（n=2）について beam walking test を行い、計 3 回歩行でのスリップ回数を測定した。薬剤 X の経口投与にて Ubab1 ノックインマウスの歩行障害を有意な改善が見られた。しかし本試験は、歩行障害発症前と思われる月齢の浅いマウスにおける薬剤投与であり、今後、歩行障害発症後のノックインマウスに対する効果や、長期投与による効果のチェックが必要である。

⑥早期診断、もしくは重症度の判定に資するバイオマーカー研究の推進

MSA の発汗低下について MSA14 名（MSA-C 9 名、MSA-P 5 名）、遺伝性脊髄小脳変性症 10 名（MJD/SCA3 1 名、SCA6 5 名、SCA31 4 名）、純粋自律神経不全症（PAF）3 名、健常人（HC）10 名にて、SUDOSCAN（Impeto Medical 社製）を用いて、electrochemical skin conductance（ESC；単位 μS ）を測定値として皮膚発汗機能を測定した。手掌の ESC は、MSA 群で SCA 群および HC 群と比べて有意に低

値だった。一方、足底の ESC は MSA・SCA・HC の 3 群の間には優位な差を認めなかったが、PAF 群では他の 3 群のいずれと比べても有意に ESC が低値であった。ROC 曲線を用いた検討では、手掌の ESC のカットオフ値を $60.13 \mu S$ とすると感度 92.9%、特異度 90.0%、AUC 0.907（95%CI:0.7455-1.000）で MSA と SCA を区別することができた。

厚生労働省・特定疾患調査解析システムに 2003 年度から 2014 年度間に登録された脊髄小脳変性症、多系統萎縮症のうち、診断基準や解析基準に関する情報を満たした 12,099 例を解析対象とした。孤発性 CCA 5,146 例、孤発性 OPCA 4,238 例、DRPLA 320 例、SCA1 127 例、SCA289 例、SCA3 870 例、SCA6 1309 例が該当した。孤発性 CCA および孤発性 OPCA は解析起点を発症時とし、発症から個票申請までの期間が 3 年未満の症例を除外した。遺伝性症例（DRPLA、SCA1、SCA2、SCA3、SCA6）は解析起点を個票申請時とし、解析起点時点で歩行不能かつ自立立位不能症例を除外した。アウトカムを歩行不能、立位不能までの時間とした Cox 比例ハザード解析にて予後因子を探索した。孤発性 CCA、孤発性 OPCA において、性別、発症時年齢、初発時の自律神経障害を予後因子候補とした解析したところ、孤発性 OPCA では歩行不能、立位不能いずれのアウトカムにおいても発症年齢（高齢）と自律神経障害（あり）が予後因子として同定された。孤発性 CCA では歩行不能、立位不能いずれのアウトカムにおいても発病年齢（高齢）が予後因子として同定された。DRPLA および SCA3 では歩行不能、立位不能いずれのアウトカムにお

いても認知機能障害が予後因子として同定された。SCA1 では歩行不能アウトカムとして脳幹萎縮、大脳萎縮が、SCA6 では歩行不能、立位不能いずれのアウトカムにおいても年齢（高齢）および小脳性構音障害が予後因子として同定された。

個別脳容積画像（Individual voxel-based morphometry adjusting covariates, iVAC）は、名古屋大学、Innsbruck 大学、藤田医科大学で共同研究に着手した。また、Splink 社と社会実装へ向けた共同開発を進めることに成功した。髄液 5-HIAA は、MSA 32 例、コントロール 33 例で測定し、コントロールに比して MSA 症例で有意に低下していた（ $p < 0.0001$ ）。また、MSA における髄液 5-HIAA は UMSARS Part I（ $r = -0.4823$, $p = 0.0052$ ）、Part II（ $r = -0.5756$, $p = 0.0096$ ）、Part IV（ $r = -0.4798$, $p = 0.0054$ ）と有意な負の相関を示した。運動症状では、振戦や体幹の運動障害と関連する下位項目と有意な負の相関を認めた。

小脳失調のみを呈する初期 MSA-C の診断に有用な画像的特徴の検討では、MSA-pc は non-MSA-pc および対照群と比較して、有意に橋の面積が小さく、中小脳脚幅の左右差を示した。脳血流 ECD-SPECT 解析では、MSA-pc は non-MSA-pc および対照群と比較して、有意に橋の局所脳血流量値低下を認め、小脳血流の左右差と中小脳脚幅の左右差は正の相関を示した。

⑦生体試料研究の基盤整備

検体収集に関し、近畿大学病院および近畿大学脳神経内科における実施体制の構築を行った。早期診断、もしくは重症度の判定に資するバイオマーカー研究としては、超

遠心法により血液エクソソームを効率よく単離・精製できることを確認した。血清から得られたエクソソーム画分には、血液凝固の過程で放出されたと考えられる血小板由来小胞が多く混入することが明らかとなった。血清と血漿の違いが血液エクソソームの解析結果に影響を与える可能性が示唆された。

⑧既存レジストリの拡充整備

運動失調症の患者登録・自然歴調査のためのコンソーシアム J-CAT を構築し、必要な臨床情報を伴う患者登録、遺伝子検査による診断精度の向上、重要な病型の前向き自然歴研究、遺伝子診断未確定における分子遺伝学的研究を行った。AMED 難治性疾患実用化事業と連携して、J-CAT 登録診断確定例 140 例に対する電話インタビューによる前向き自然歴調査を開始した。J-CAT 登録 SCA6・SCA31 症例に対する連携産学官前向き自然歴研究 J-CAT PRIME を開始した。

Hokkaido Rare-disease Consortium for MSA(HoRC-MSA)の登録症例のうち、MSA criteria の追加情報が確認可能であった 65 名と対照群 25 名について新旧診断基準項目を検討した。旧基準で Possible の判定であった症例のうち 33%は、MDS criteria ではより確実度の高い Clinically Established に該当した。初回評価時点の臨床情報を用いると、MDS criteria では感度 92.3%、特異度 96.0%、陽性的中率 98.3%であった。旧基準においては、感度 100.0%、特異度 76.0%、陽性的中率 91.5%であり、有意差をもって MDS criteria のほうで特

異度が高かった($p=0.027$ 、 $\chi^2=4.9$)。一方、MDS criteria の支持的所見を欠いた症例や、自律神経障害が目立たない症例では MDS criteria を満たさない例も散見された。

研究により得られた成果の今後の活用・提供：

①小児例を含めた実態調査

小児期発症 DRPLA 症例の自然歴調査を行うことによって、今後新たに小児期に発症した DRPLA 症例の予後をできるだけ正確に予測できるだけでなく、今後治療研究が進展してきた際に治療効果の判定に用いることも可能となる。

小児期発症の小脳失調症状を呈する場合、小脳低形成か小脳萎縮かが画像診断だけでは判断困難なことが多い。遺伝子解析によって、半数以上で原因診断可能となった。予後予測だけでなく、治療に直結することもあるので、積極的な遺伝子解析を行うべきである。また臨床医が遺伝子解析にアクセスしやすくなるように検査体制を整えるべきである。

小児期発症の小脳性運動失調症は多くが孤発性であり、非常に稀少な原因遺伝子が見いだされることも少なくないことから、小脳性運動失調症においては全エクソーム解析が診断のために第一選択の検査となることを見出した。

診療ガイドラインでは CQ5-2 「二次性の小脳性運動失調症」において、組織球症に由来する小脳失調症を記して臨床医の注意を喚起する必要がある。

SCA1 自然歴研究は、自立して 6 分間歩行が可能な遺伝学的に確定診断された SCA1 患者を登録し、12 ヶ月毎の脳 MRI・

脳血流 SPECT、6 ヶ月毎の SARA、三次元加速度計を用いた歩行解析、9-hole peg test を行った。

東北大学において、今後も新たな試料と正確な臨床情報の収集を継続することで、本邦における家族性 SCD の遺伝学的背景と遺伝子型-表現型関連、地域集積性の解明に寄与することが期待される。

鳥取県の SCD の頻度や分布、合併症や非運動症状を加えた臨床症状の特徴を明らかにすることにより、国内での地域差の把握および高齢化社会における SCD の特徴を明らかにしていく。これは今後、高齢化する日本における、SCD 診療の新しい注意点を明らかにするとともに、高齢純粋小脳型 SCD を対象とした介入試験を行う際に注意すべき点を提示することにもつながる。

徳島県では SCA6 が最多で SCA3 がそれに続いた。今後遺伝子治療の臨床試験などが実施される場合は該当者の抽出に活用する予定である。

純粋小脳型の脊髄小脳変性症には遺伝学的にも診断のつかない例を含めて複数の疾患が含まれる。多数例を占める SCA31 においては、従来注目されていない、複視、外眼筋麻痺が認められた。この点は今後の診療ガイドライン改定時に反映を行いたい。

東北大学にて新規に同定した CANVAS 例は、既報と比較して前庭反射消失を伴わない一方で運動ニューロン疾患としての側面が強調された。また横浜市立大学での CANVAS 剖検例検討でも、ACAGG リピートを持つ症例では運動神経細胞脱落が認められることが明らかとなった。CANVAS における運動ニューロン障害の病的意義や早期症状としての重要性に注意していく必要

性がある。

RFC1 遺伝子の病的リピート異常伸張に伴う遺伝性神経疾患は非常に多様であり、CANVAS や小脳失調症以外にも感覚ニューロパチーや慢性咳嗽などが見られ、それらを包括して RFC1 遺伝子関連スペクトラム障害という名称が使用されるようになってきている。小脳失調症と CMT においては(AAGGG)exp/(AAGGG)exp の症例で発症年齢が低い傾向を認めた。また表現型とリピートモチーフの解析ではリピートモチーフが表現型を決定する因子ではないことが推測された。これらの知見は SCD に共通する神経変性メカニズムのさらなる病態解明および今後の治療開発に貢献するものである。

MSA 症例の第一度近親者に PD 症例が存在する家系が見出され、両疾患の遺伝的な危険因子の共通基盤が存在する可能性が示唆された。

多系統萎縮症の告知について、多くの医師が多系統萎縮症の病名告知や突然死リスクの説明に困難を感じており、告知に関する更なる議論や指針が必要である。患者・家族への配慮と説明責任の間で葛藤を感じており、医師のストレスコーピングや倫理的議論の成熟も重要である。

脳へモジデリン沈着症の難病指摘および診断指針の公表により本疾患の認知は確実に高まっている。各患者への診療体制の充実が期待されているが、未だ不十分なところもあり、さらなる本疾患の周知により患者へのサポート充実が必要である。

②発症前診断、早期診断システムの確立
本邦の免疫介在性小脳性運動失調症例の

一部で Sez6l2 抗体が陽性である。免疫介在性小脳性運動失調症 (ACA) の頻度は後方視的検査では稀であったが、診断困難例も多いと考えられる。診断方法や診断基準の確立や、自然歴や治療効果の情報を収集することを目的としたレジストリ構築が望まれる。

ISA や IDCA と診断される患者において、自己免疫病態を有する患者がいることを示した。これらの患者を対象にした臨床試験「特発性小脳失調症に対する免疫療法の有効性及び安全性を検証するランダム化並行群間試験」を進めている。

機械学習法 (RSF 法) による、CAG リピート数と発症年齢予測は、従来法よりも高い精度で未発症者の発症予測を可能とした。これは遺伝カウンセリングや、未発症キャリアに対する治療介入に有用と期待される。

③失調全般および疾患毎の症状評価方法の確立

IDCA、SCA6、SCA31、MSA-C の 4 病型を対象に問診を重視したアンケートによる多施設共同の前向き自然歴調査を開始した。データの収集と解析を続けていく。

ARCA2 に低リン血症を合併した 1 例を経験した。低リン血症は種々の疾患で予後不良因子として知られ、重症例 (<2.0mg/dl) では、潜行性に筋力低下や骨代謝以上を呈するため、臨床的に症状が明らかでなくとも治療が推奨される。低リン血症を合併した ARCA2 は今までに報告がなく、本例は ADCK3 遺伝子異常による臨床症状の新たな側面を示唆する可能性がある。治療困難な疾患群として知られる遺伝性小脳失調症

において、部分的に治療可能な ARCA2 は臨床医にとって重要な疾患である。

VR (Virtual Reality) を用いた計測手法を、これまで定量的評価が困難であった上肢の運動失調の新しい評価指標として活用することを目標とする。SARA などの各種臨床指標との相関解析、各病型の特徴抽出、Voxel-based morphometry などの画像解析を用いた病態解析、発語失行など、その他の発話障害との違いなどを検討することにより、SCD の運動失調性構音の特徴を明らかにし、疾患の早期診断につなげていく。

④欧米研究組織との連携を強化し、国際治験推進の基盤作り

DRPLA, 劣性遺伝性脊髄小脳変性症については、各々国際研究推進について検討した。メイヨークリニックとの国際共同研究で、SCA3 を髄液、血清で測定することを可能とし、その治験に向けて大きな成果となった。

⑤既存の薬物療法、リハビリテーション療法、進行期治療方法の標準化

SCA42 の病態機序解明を進めている。シナプス形成異常や電気生理学的異常を改善させる候補薬剤のスクリーニング系を構築する予定である。

SCA36 細胞モデルで治療候補化合物として同定された、SCC および HC について、患者由来の iPS 細胞や、動物モデルなど、より SCA36 の病態を忠実に再現したモデルへの活用が想定される。さらに同様の病態機序が推定される他の神経変性疾患 (C9orf72-ALS/FTD, FXTAS など) への活用を目標とする。

短期集中リハビリテーション治療によって運動失調や ADL が改善することは数多く報告されているが、各病型で治療効果が異なるかどうかは不明であった。本研究は、短期集中リハビリテーション治療によって各病型で運動失調の改善度は異なるが、ADL の改善度はほぼ同等となる可能性を示した。

本試験で HAL@腰タイプを用いた在宅運動療法の有効性と安全性を評価し、今後さらに効率的な在宅運動療法に向けた基盤を構築していく。

MSA 患者において、人工呼吸器治療は突然死のリスクを減少させ、生存期間を延長させる可能性が示唆された。一方で、人工呼吸器を装着する際の ADL は大きく低下しており、突然死も完全には予防できない。人工呼吸器治療は、延命効果だけではなく QOL や ADL も含めた倫理的な観点からも検討すべきである。

AJA030 治験では、主要評価項目である SARA「合計」スコアの変化量において、有意ではなかったが傾向差が認められ、脊髄小脳変性症に対する被験薬 (AJA030 実薬) 投与の有効性が示唆された。ただし、実薬群に重篤な副作用が発現していることから、被験薬 (AJA030 実薬) の投与においては安全性には充分注意する必要がある。次相の治験に向けた準備を進めていく。

遺伝性痙性対麻痺モデルマウスのデータを更に蓄積して病態メカニズムの解明や、治療法の開発に繋げたい。また本試験で用いた薬剤 X は、すでにヒトでの安全性や薬物動態の試験が済んでいる薬剤であるため、drug repositioning としてヒトでの臨床試験を行いたい。

⑥早期診断、もしくは重症度の判定に資するバイオマーカー研究の推進

SUDOSCANはMSAとSCAの鑑別に有用であることが示唆された。他の自律神経障害がない患者でも発汗低下があり、従来の自律神経評価に発汗検査を加えることで、より早期からMSAの自律神経障害を検出できる可能性がある。また、足底ESCはMSAのバイオマーカーとして利用できる可能性があり、経時的な変化について検討していく予定である。

脊髄小脳変性症の病型別の予後を明らかにすることは、今後の新たな治療薬の評価、介護計画を立案する上で極めて重要である。本研究は、全国規模で集積された症例を用いて登録から最長10年間の予後を評価できるデータベースを用いて病型別に歩行不能をアウトカムとして、予後因子を明らかにし得た。

MSAの早期診断に資する個別解析可能な脳容積画像方法の開発では、iVACを軸として企業連携を進め、国際共同研究の準備に入った。またMSAにおける髄液5-HIAA(セロトニン代謝物)と病態の関連を検討では、5-HIAAの低下が、自律神経不全、ADLの低下、振戦、体幹症状と関連する可能性を示した。

診断基準を満たさず、小脳失調のみを呈する初期MSA-Cの診断において、中小脳脚幅の左右差と橋の局所脳血流量値低下は、早期介入を促す上で臨床的に有用であると考えられる。

⑦生体試料研究の基盤整備

これまでに構築した検体収集体制に則

り、運動失調症患者の検体収集を進める。また、患者検体を用いた血液エクソソームの解析を進める。

⑧既存レジストリの拡充整備

J-CATは運動失調症の分子疫学解明・病型別前向き自然歴確立・早期鑑別診断指標の抽出・自己免疫性小脳失調症の診断支援に有効に活用されている。今後J-CATを基盤として運動失調症の医療水準、患者QOLの向上に資する研究を推進する。

HoRC-MSAの解析では、MDS criteriaは発症初期、進行期においても大きく感度や特異度が低下することはなく、むしろ特異度は上昇した。これからの病態修飾療法の臨床試験での対象選択等において有用性の高い診断基準であると考え。同レジストリの運営を継続していく。

研究成果の刊行に関する一覧表
別添4のとおり

研究成果による知的財産権の出願・取得状況

該当なし

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
東山雄一、田中章景	本年の動向 小脳と認知機能	鈴木則宏編	Annual Review 神経	中外医学社	東京	2020	91-98
瀧山嘉久	痙性対麻痺	永井良三	今日の診断指針 第8版	医学書院	東京	2020	684-650
田中章景ら	脊髄小脳変性症	技術情報協会	疾患原因遺伝子・タンパク質の解析技術と創薬/診断技術への応用	技術情報協会	東京	2022	第6章 第5節
吉田邦広	多系統萎縮症, 特発性小脳失調症	下畑享良	脳神経内科ハンドブック	中外医学社	東京	2022	170-176
瀧山嘉久	痙性対麻痺 (HAMを含む)	福井次矢ほか	今日の治療指針	医学書院	東京	2022	990-992
佐々木征行	脊髄小脳変性症、脊髄小脳失調症		小児疾患診療のための病態生理	東京医学社	東京	2022	p370-4

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Minakawa EN et al.	Arginine is a disease modifier for polyQ disease models that stabilizes polyQ protein conformation	Brain	143(6)	1811-1825	2020
Matsushima M, et al.	Multiple system atrophy in Hokkaido, Japan: a prospective registry study of natural history and symptom assessment scales followed for 5 years	BMJ Open	11(2)	e045100	2021
Nomura T, Iwata I, Harada T, Yabe I.	Cerebellar rotation abnormalities observed in Machado-Joseph Disease	Intern Med	59(24)	3253-3254	2020
Nakamura H et al.	Long-read sequencing identifies the pathogenic nucleotide repeat expansion in RFC1 in a Japanese case of CANVAS	J Hum Genet	65(5)	475-480	2020

Satoh S, Kondo Y, Ohara S, Yamaguchi T, Nakamura K, Yoshida K.	Intrafamilial phenotypic variation in spinocerebellar ataxia type 23	Cerebellum & Ataxias	7	7	2020
Yoshihisa Takiyama	Defining the clinical, molecular and imaging spectrum of adaptor protein complex 4-associated hereditary spastic paraplegia: a cross-sectional analysis of 156 patients	Brain	143(10)	2929-2944	2020
Yoshihisa Takiyama	A novel mutation in the <i>GBA2</i> gene in a Japanese patient with SPG46: a case report	eNeurologicalSci	19	100238	2020
Yoshihisa Takiyama	A Japanese SPG4 patient with a confirmed de novo mutation in the <i>SPAST</i> gene	Intern Med	59	2311-2315	2020
Yoshihisa Takiyama	<i>RFC1</i> repeat expansion in Japanese patients with late-onset cerebellar ataxia	J Hum Genet	65	1143-1147	2020
Yoshihisa Takiyama	A case of late onset Chediak-Higashi syndrome with progressive gait disturbance and cognitive dysfunction caused by novel variant in <i>LYST</i> gene	Neurology and Clinical Neuroscience	8	415-418	2020
Yoshihisa Takiyama	Identification of a novel mutation in <i>ATP13A2</i> associated with a complicated form of hereditary spastic paraplegia	Neurol Genet	6	E514	2020
Yoshihisa Takiyama	SPG9A with the new occurrence of an <i>ALDH18A1</i> mutation in a <i>CMT1A</i> family with PMP22 duplication: case report	BMC Neurol	21	64	2020
Yoshihisa Takiyama	Sympathetic nerve outflow to skin in a case with dentatorubral-pallidolusian atrophy	J Clin Neurosci	87	80-83	2020
宮井一郎	脊髄小脳変性症・多系統萎縮症診療ガイドライン	Clinical Rehabilitation	29(6)	584-589	2020

宮井一郎	ヒトにおける歩行と姿勢制御の脳内機構とリハビリテーション治療への適用	リハビリテーション医学 (J Rehabil Med)	10(57)	965-973	2020
平松佑一, 藤本宏明, 乙宗宏範, 島中めぐみ, 矢倉一, 宮井一郎	SCD・MSA に対するリハビリテーションの実際	難病と在宅ケア	26(3)	10-13	2020
平松佑一, 宮井一郎	運動失調の病態と臨床症状	作業療法ジャーナル	54(10)	1072-1077	2020
Hirayanagi K, Ozaki H, Tsukagoshi S, Furuta N, Ikeda Y.	Porphyryns ameliorate spinocerebellar ataxia type 36 GGCCTG repeat expansion-mediated cytotoxicity	Neuroscience Research	Oct;171	92-102	2021
Aoki S, Nagashima K, Shibata M, Kasahara H, Fujita Y, Hashiguchi A, Takashima H, Ikeda Y.	Sibling Cases of Charcot-Marie-Tooth Disease Type 4H with a Homozygous FGD4 Mutation and Cauda Equina Thickening	Intern Med	60(24)	3975-3981	2021
H. Aoki, M. Higashi, M. Okita, N. Ando, S. Murayama, <u>K. Ishikawa</u> , T. Yokota.	Thymidine kinase 2 and mitochondrial protein COX I in the cerebellum of patients with spinocerebellar ataxia type 31 caused by penta-nucleotide repeats (TTCCA) _n	Cerebellum	22(1)	70-84	2022
Kurumada K, Sugiyama A, Hirano S, Yamamoto T, Yamanaka Y, Araki N, Yakiyama M, Yoshitake M, Kuwabara S.	Pareidolia in Parkinson's disease and multiple system atrophy	Parkinson's Disease	2021	2704755.	2021
Ogata S et al	Sensory Ataxic Guillain-Barré Syndrome with Dysgeusia after mRNA COVID-19 Vaccination	Intern Med	in press	in press	2022
Kimura M et al.	Takotsubo Cardiomyopathy in Bickerstaff Brainstem Encephalitis Triggered by COVID-19	Front Neurol	12	822247	2021
Lipponen J, et al.	Molecular epidemiology of hereditary ataxia in Finland	BMC Neurol	21(1)	382	2021
Kubota S et al.	SGTA associates with intracellular aggregates in neurodegenerative diseases	Mol Brain	14(1)	59	2021

Ebina J, Hara K, Watanabe H, Kawabata K, Yamashita F, Kawaguchi A, Yoshida Y, Kato T, Ogura A, Masuda M, Ohdake R, Mori D, Maesawa S, Katsuno M, Kano O, Sobue G.	Individual voxel-based morphometry adjusting covariates in multiple system atrophy. Parkinsonism Relat Disord	Parkinsonism Relat Disord	90	114-119	2021
Matsushima A, Maruyama Y, Mizukami N, Tetsuya M, Hashimoto M, <u>Yoshida K.</u>	Gait training with a wearable curara® robot for cerebellar ataxia: a single-arm study	Biomed Eng Online	20(1)	90	2021
Takiyama Y, et al.	A p.Glu420Gln mutation in SPAST is associated with infantile onset spastic paraplegia complicated by cerebellar ataxia, epilepsy, peripheral neuropathy, and hypoplasia of the corpus callosum.	Neurol Sci	43(3)	2123-2126	2022
Takiyama Y, et al.	Japan Spastic Paraplegia Research Consortium. Chediak-Higashi syndrome presenting as a hereditary spastic paraplegia.	J Hum Gene	67	119-121	2022
Takiyama Y, et al.	Spastic paraplegia with Paget's disease of bone due to a VCP gene mutation.	Intern Med	60(1)	141-144	2021
Takiyama Y, et al.	A Nepalese family with an REEP2 mutation: clinical and genetic study. Jul66(7):749-752.	J Hum Genet	66(7)	749-752	2021
Takiyama Y, et al.	Biallelic variants in HPDL cause pure and complicated hereditary spastic paraplegia	Brain	144(5)	1422-1434	2021
高尾昌樹	脳表ヘモジデリン沈着症のオーバビュー	神経治療学	38(2)	80-82	2021
大平雅之	脳表ヘモジデリン沈着症の疫学	神経治療学	38(2)	83-85	2021
N Miyazawa et al.	Case of cortical superficial siderosis presenting with corticobasal syndrome	Clin Neurosci	10(2)	95-97	2022
藤本宏明, <u>宮井一郎</u>	脊髄小脳変性症のニューロリハビリテーション治療	Jpn J Rehabil Med	58(5)	536-543	2021

Hatano Y, Ishihara T, Hirokawa S, Onodera O.	A machine learning approach for prediction of the age-specific probability of SCA3 and DRPLA by survival curve analysis	Neurology genetics	(In Press)		2023
Mizushima K, Yaguchi H, Sato S, Yabe I	Immune-mediated Cerebellar Ataxia with Neurosarcoidosis	Internal Medicine	(online)	(online)	2022
松島理明、矢部一郎	New MDS Criteriaの日常診療・臨床試験における使用方法	BRAIN and NERVE	75(2)	143-147	2023
Shijo T, Suzuki N, Warita H, Kawauchi Y, Mitsuzawa S, Ikeda K, Izumi R, Ono R, Ohno A, Toyoshima M, Harada R, Kuroda H, Kato M, <u>Aoki M.</u>	Patients with lower limb-onset ALS who have a longer duration from onset to diagnosis have a better prognosis	Neurol Clin Neurosci	10	239-244	2022
Ishigakii K, Ikeda R, Suzuki J, Hirano-Kawamoto A, Ohta J, Kato K, Izumi R, Suzuki N, <u>Aoki M</u> , Kawase T, Katori Y.	Patulous Eustachian Tube Patients With Oculopharyngeal Muscular Dystrophy	Otol Neurotol	43(4)	e442-e445	2022
Akaishi T, Himori N, Takeshita T, Misu T, Takahashi T, Takai Y, Nishiyama S, Kaneko K, Fujimori J, Ishii T, <u>Aoki M</u> , Fujihara K, Nakazawa T, Nakashima I.	Follow-up of retinal thickness and optic MRI after optic neuritis in anti-MOG antibody-associated disease and anti-AQP4 antibody-positive NMOSD	J Neurol Sci	437	120269	2022
Mitsui S, Otomo A, Sato K, Ishiyama M, Shimakura K, Okada-Yamaguchi C, Warabi E, Yanagawa T, <u>Aoki M</u> , Shang HF, Hadano S.	SQSTM1, a protective factor of SOD1-linked motor neuron disease, regulates the accumulation and distribution of ubiquitinated protein aggregates in neuron	Neurochem Int	158	105364	2022
Kubota T, Sugeno N, Sano H, Murakami K, Ikeda K, Misu T, <u>Aoki M.</u>	The Immediate Onset of Isolated and Unilateral Abducens Nerve Palsy Associated with COVID-19 Infection: A Case Report and Literature Review	Intern Med	61(11)	1761-1765	2022
Suzuki N, Nishiyama A, Warita H, <u>Aoki M.</u>	Genetics of amyotrophic lateral sclerosis: seeking therapeutic targets in the era of gene therapy	J Hum Genet	68(3)	131-152	2023

Akaishi T, Ishii T, <u>Aoki M</u> , Nakashima I.	Calculating and Comparing the Annualized Relapse Rate and Estimating the Confidence Interval in Relapsing Neurological Diseases	Front Neurol	13	875456	2022
Takahashi T, Li Y, Chen W, Nyasha MR, Ogawa K, Suzuki K, Koide M, Hagiwara Y, Itoi E, Aizawa T, Tsuchiya M, Suzuki N, <u>Aoki M</u> , Kanzaki M.	RSPO3 is a novel contraction-inducible factor identified in an "in vitro exercise model" using primary human myotubes	Sci Rep	12(1)	14291	2022
Nishiyama S, Wright AE, Lotan I, Mikami T, Paul F, <u>Aoki M</u> , Levy M.	Upregulated complement receptors correlate with Fc gamma receptor 3A-positive natural killer and natural killer-T cells in neuromyelitis optica spectrum disorder	J Neuroinflammation	19(1)	296	2022
Genge A, Pattee GL, Sobue G, <u>Aoki M</u> , Yoshino H, Couratier P, Lunetta C, Petri S, Selness D, Bidani S, Hirai M, Sakata T, Salah A, Apple S, Wamil A, Kalin A, Jackson CE.	Oral edaravone demonstrated a favorable safety profile in patients with amyotrophic lateral sclerosis after 48 weeks of treatment	Muscle Nerve	67(2)	124-129	2023
Akaishi T, Ishii T, Nakaya N, Nakamura T, Kogure M, Hatanaka R, Itabashi F, Kanno I, <u>Aoki M</u> , Hozawa A.	White blood cell count profile in patients with physical complaints without known causes	SAGE Open Med	10	205031212 21105328	2022
Shinohara M, Yokoi K, Hirayama K, Kanno S, Hosokai Y, Nishio Y, Ishioka T, Otsuki M, Takeda A, Baba T, <u>Aoki M</u> , Hasegawa T, Kikuchi A, Narita W, Mori E, Suzuki K.	Mirror writing and cortical hypometabolism in Parkinson's disease	PLoS One	17(12)	e0279007	2022
Yamamoto N, Ikenouchi H, Takai Y, Endo K, <u>Aoki M</u> .	Myelin Oligodendrocyte Glycoprotein Antibody-Associated Disease With False-Positive Results in SARS-CoV-2 Antigen Tests: A Case Report	Cureus	14(11)	e31514	2022
Ohyama-Tamagake A, Kaneko K, Itami R, Nakano M, Namioka Y, Izumi R, Sato H, Suzuki H, Takeda A, Okazaki Y, Yatsuka Y, Abe T, Murayama K, Sugeno N, Misu T, <u>Aoki M</u> .	Adult-onset Leigh Syndrome with a m.9176 T>C Mutation Manifested as Reversible Cerebral Vasoconstriction Syndrome	Intern Med	(Epub ahead of print)		2022

Sandhya P, Akaishi T, Fujihara K, <u>Aoki M.</u>	A novel association of osmotic demyelination in Sjögren's syndrome prompts revisiting role of aquaporins in CNS demyelinating diseases: A literature review	Mult Scler Relat Disord	69	104466	2023
Kubota T, Hosaka T, Ando D, Ikeda K, Izumi R, Misu T, Warita H, <u>Aoki M.</u>	Spinal Cord Infarction in an Adolescent with Protein S Deficiency: A Case Report and Literature Review	Intern Med	(Epub ahead of print)		2023
Shijo T, Ikeda R, Suzuki N, Ohta J, Suzuki J, Hirano-Kawamoto A, Kato K, Ikeda K, Izumi R, Mitsuzawa S, Warita H, Kato M, <u>Aoki M.</u> , Katori Y.	Videofluoroscopic Dysphagia Scale as an Additional Indicator of Gastrostomy in Patients with Amyotrophic Lateral Sclerosis with Dysphagia	Tohoku J Exp Med	(Epub ahead of print)		2023
Nyasha MR, Chen W, Wang H, Yaoita F, <u>Aoki M.</u> , Nagatomi R, Kanzaki M.	Effects of CX3CR1 and CXCR2 antagonists on running-dependent intramuscular neutrophil recruitments and myokine upregulation	Am J Physiol Endocrinol Metab	(Epub ahead of print)		2023
Yamazaki N, Hasegawa T, Ikeda K, Miyata A, Osawa SI, Niizuma K, Kanno S, Tominaga T, <u>Aoki M.</u>	Olfactory Dysfunction, an Often Neglected Symptom of Hydrocephalus: Experience from a Case of Late-Onset Idiopathic Aqueductal Stenosis	Case Rep Neurol	15(1)	41-47	2023
Minamiyama S, Sakai M, Yamaguchi Y, Kusui M, Wada H, Hikiami R, Tamaki Y, Asada-Utsugi M, Shodai A, Makino A, Fujiwara N, Ayaki T, Maki T, Warita H, <u>Aoki M.</u> , Tomonaga K, Takahashi R, Urushitani M.	Efficacy of oligodendrocyte precursor cells as delivery vehicles for single-chain variable fragment to misfolded SOD1 in ALS rat model	Mol Ther Methods Clin Dev	28	312-329	2023
Umezawa G, Hasegawa T, Ikeda K, Saito G, <u>Aoki M.</u>	Dramatic Responses to Low-Dose Pramipexole in Painful Legs and Moving Toes Syndrome.	Cureus	15(2)	e34763	2023

望月秀樹, <u>青木正志</u> , 池中建介, 井上治久, 岩坪 威, 宇川義一, 岡澤均, 小野賢二郎, 小野寺理, 北川一夫, 齊藤祐子, 下畑享良, 高橋良輔, 戸田達史, 中原仁, 松本理器, 水澤英洋, 三井純, 村山繁雄, 勝野雅央, 日本神経学会将来構想委員会	脳神経疾患克服に向けた研究推進の提言 2020、各論(方法論別)	臨床神経学	62(6)	429-442	2022
望月秀樹, <u>青木正志</u> , 池中建介, 井上治久, 岩坪 威, 宇川義一, 岡澤均, 小野賢二郎, 小野寺理, 北川一夫, 齊藤祐子, 下畑享良, 高橋良輔, 戸田達史, 中原仁, 松本理器, 水澤英洋, 三井純, 村山繁雄, 勝野雅央, 日本神経学会将来構想委員会	脳神経疾患克服に向けた研究推進の提言2020、各論(疾患群別)	臨床神経学	62(6)	443-457	2022
<u>青木正志</u>	難治性疾患(難病)を学ぶ 筋萎縮性側索硬化症(ALS)	遺伝子医学	12(3)	114-121	2022
<u>青木正志</u> , 高橋俊明	【遺伝性神経・筋疾患-診療と研究の最前線】ミオパチー,筋ジストロフィーの病態・診断・治療法開発 Dysferlin遺伝子異常に伴う筋ジストロフィー Dysferlinopathy	医学のあゆみ	283(10)	983-987	2022
割田仁, <u>青木正志</u>	【革新脳と関連プロジェクトから見えてきた新しい脳科学】ヒト疾患研究 b)神経変性疾患 iPS細胞技術を用いたALSの病態解析	生体の科学	73(5)	474-475	2022
井泉瑠美子, 鈴木直輝, <u>青木正志</u>	【炎症性筋疾患に関する最新の知見】封入体筋炎	臨床免疫・アレルギー科	78(4)	430-437	2022
金子仁彦, 浪岡靖弘, 大山綾音, 高井良樹, 檜森紀子, 中澤徹, 三須建郎, <u>青木正志</u>	再発後早期に eculizumab を導入した抗アクアポリン4抗体陽性視神経脊髄炎の2例	神経治療学	39(4)	731-735	2022
高井良樹, 三須建郎, 藤原一男, <u>青木正志</u>	多発性硬化症・視神経脊髄炎の治療トレンド最前線 Myelin oligodendrocyte glycoprotein 抗体関連疾患の治療 現状と課題	神経治療学	39(3)	282-288	2022
<u>青木正志</u> , 高橋俊明	【日本発の神経疾患-発見の歴史からのメッセージ】遺伝性疾患 三好型遠位型筋ジストロフィー 原因究明の歴史	Clinical Neuroscience	41(1)	119-121	2023

鈴木直輝, 割田仁, <u>青木正志</u>	【骨格筋のすべて-メカニズムからサルコペニアまで】筋症状を伴う疾患 筋萎縮性側索硬化症-骨格筋の症状と分子病態	Clinical Neuroscience	41(2)	256-259	2023
<u>青木正志</u> , 西山亜由美, 割田 仁	【ALS ーどこまでわかり, どこまで治るか】原因と発症機序 SOD1	Clinical Neuroscience	41(3)	334-337	2023
Furuta M, Sato M, Tsukagoshi S, Tsushima Y, Ikeda Y.	Criteria-unfulfilled multiple system atrophy at an initial stage exhibits laterality of middle cerebellar peduncles	J Neurol Sci	438	120281	2022
Shiwaku H, Katayama S, Gao M, Kondo K, Nakano Y, Motokawa Y, Toyoda S, Yoshida F, Hori H, Kubota T, <u>Ishikawa K</u> , Kunugi H, Ikegaya Y, Okazawa H, Takahashi H.	Analyzing schizophrenia-related phenotypes in mice caused by autoantibodies against NRXN1α in schizophrenia	Brain Behav Immun	111	32-45	2023
Saucier J, Al-Qadi M, Amor MB, <u>Ishikawa K</u> , Chamard-Witkowski L.	Spinocerebellar ataxia type 31: A clinical and radiological literature review	J Neurol Sci	444	120527	2023
<u>Ishikawa K</u> .	Spinocerebellar ataxia type 31 (SCA31)	J Hum Genet	68(3)	153-156	2023
Zeniya S, Sanjo N, Kuwahara H, <u>Ishikawa K</u> , Higashi M, Matsunaga A, Yoneda M, Mizusawa H, Yokota T.	Spinocerebellar Ataxia Type 31 Exacerbated by Anti-amino Terminal of Alpha-enolase Autoantibodies	Intern Med	61(18)	2793-2796	2022
Winklehner M, Bauer J, Endmayr V, Schwaiger C, Ricken G, Motomura M, Yoshimura S, Shintaku H, <u>Ishikawa K</u> , Tsuura Y, Iizuka T, Yokota T, Irioka T, Höftberger R.	Paraneoplastic cerebellar degeneration with P/Q-VGCC vs Yo autoantibodies	Neurol Neuroimmunol Neuroinflamm	9(4)	e200006	2022
Shiwaku H, Katayama S, Kondo K, Nakano Y, Tanaka H, Yoshioka Y, Fujita K, Tamaki H, Takebayashi H, Terasaki O, Nagase Y, Nagase T, Kubota T, <u>Ishikawa K</u> , Okazawa H, Takahashi H.	Autoantibodies against NCAM1 from patients with schizophrenia cause schizophrenia-related behavior and changes in synapses in mice	Cell Rep Med	3(4)	100597	2022

石川欽也、水澤英洋	SCA6, SCA31-臨床・原因究明の歴史 わが国の遺伝性皮質性小脳萎縮症の解明をめざして	Clinical Neuroscience	41(1)	44-49	2023
Wang J, Sugiyama A, Yokota H, Hirano S, Cooper G, Mukai H, Ohira K, Koide K, Ito S, Finke C, Brandt AU, Paul F, Kuwabara S.	Diagnostic efficacy of the magnetic resonance T1w/T2w ratio for the middle cerebellar peduncle in multiple system atrophy and spinocerebellar ataxia: A preliminary study	PLoS ONE	17(4)	e0267024	2022
Sugiyama A, Yokota H, Hirano S, Wang J, Ito S, Kuwabara S.	Association between cognitive impairment and hippocampal subfield volumes in multiple system atrophy	Parkinson's disease	2023	8888255	2023
Hama Y, Date H, Fujimoto A, Matsui A, Ishiura H, Mitsui J, Yamamoto T, Tsuji S, Mizusawa H, Takahashi Y.	A Novel de novo KIF1A Mutation in a Patient with Ataxia, Intellectual Disability and Mild Foot Deformity	Cerebellum	(Online ahead of print)		2022
Matsukawa T, et al.	Clinical and Genetic Features of Multiplex Families with Multiple System Atrophy and Parkinson's Disease	Cerebellum	(Online ahead of print)		2022
Higashiyama Y, Kuroki M, Kudo Y, Hamada T, Morihara K, Saito A, Miyaji Y, Kimura K, Joki H, Kishida H, Doi H, Ueda N, Takeuchi H, Johkura K, Tanaka F.	Reduced likelihood of the Poggendorff illusion in cerebellar strokes: A clinical and neuroimaging study	Brain Commun	5(2)	fcad053	2023
Ylikotila P, Sipilä J, Alapirtti T, Ahmasalo R, Koshimizu E, Miyatake S, Hurme-Niiranen A, Siitonen A, Doi H, Tanaka F, Matsumoto N, Majamaa K, Kytövuori L.	Association of biallelic RFC1 expansion with early-onset Parkinson's disease	Eur J Neurol	30(5)	1256-1261	2023

Miyatake S, Koshimizu E, Fujita A, Doi H, Okubo M, Wada T, Hamanaka K, Ueda N, Kishida H, Minase G, Matsuno A, Kodaira M, Ogata K, Kato R, Sugiyama A, Sasaki A, Miyama T, Satoh M, Uchiyama Y, Tsuchida N, Hamanoue H, Misawa K, Hayasaka K, Sekijima Y, Adachi H, Yoshida K, Tanaka F, Mizuguchi T, Matsumoto N.	Rapid and comprehensive diagnostic method for repeat expansion diseases using nanopore sequencing	NPJ Genom Med	7(1)	62	2022
Wada T, Higashiyama Y, Kunii M, Jono T, Kobayashi T, Kubota S, Tada M, Hara M, Kimura A, Doi H, Takeuchi H, Tanaka F.	Ocular flutter as the presenting manifestation of autoimmune glial fibrillary acidic protein astrocytopathy	Clin Neurol Neurosurg	219	107307	2022
Ueda N, Higashiyama Y, Saito A, Kimura K, Nakae Y, Endo M, Joki H, Kugimoto C, Kishida H, Doi H, Takeuchi H, Koyano S, Tanaka F.	Relationship between motor learning and gambling propensity in Parkinson's disease	J Clin Exp Neuropsychol	44(1)	50-61	2022
Koyano S, Yagishita S, Tada M, Doi H, Uchihara T, Tanaka F.	Parallel Appearance of Polyglutamine and Transactivation-Responsive DNA-Binding Protein 43 and Their Complementary Subcellular Localization in Brains of Patients With Spinocerebellar Ataxia Type 2	J Neuropathol Exp Neurol	81(7)	535-544	2022
Miyatake S, Yoshida K, Koshimizu E, Doi H, Yamada M, Miyaji Y, Ueda N, Tsuyuzaki J, Kodaira M, Onoue H, Taguri M, Imamura S, Fukuda H, Hamanaka K, Fujita A, Satoh M, Miyama T, Watanabe N, Kurita Y, Okubo M, Tanaka K, Kishida H, Koyano S, Takahashi T, Ono Y, Higashida K, Yoshikura N, Ogata K, Kato R, Tsuchida N, Uchiyama Y, Miyake N, Shimohata T, Tanaka F, Mizuguchi T, Matsumoto N.	Repeat conformation heterogeneity in cerebellar ataxia, neuropathy, vestibular areflexia syndrome	Brain	145(3)	1139-1150	2022

Kytövuori L, Sipilä J, Doi H, Hurme-Niiranen A, Siitonen A, Koshimizu E, Miyatake S, Matsumoto N, Tanaka F, Majamaa K.	Biallelic expansion in RFC1 as a rare cause of Parkinson's disease	NPJ Parkinsons Dis	8(1)	6	2022
宮地洋輔, 土井宏, 田中 章景	【RFC1 遺伝子関連スペクトラム障害】 RFC1 遺伝子関連スペクトラム障害における運動ニューロン障害	神経研究の進歩	74(11)	1287-1291	2022
土井宏, 田中章景	【RFC1 遺伝子関連スペクトラム障害】 慢性咳嗽と機序	神経研究の進歩	74(11)	1267-1271	2022
Watanabe H, Shima S, Mizutani Y, Ueda A, Ito M.	Multiple System Atrophy: Advances in Diagnosis and Therapy	J Mov Disord	16	13-21	2023
Kishimoto Y, Hashizume A, Imai Y, Nakatochi M, Yamada S, Ito D, Torii R, Nagano Y, Fujimoto H, Katsuno M.	Quantitative evaluation of upper limb ataxia in spinocerebellar ataxias	Annals of Clinical and Translational Neurology	9(4)	529-539	2022
Takekoshi A, Kimura A, Yoshikura N, Yamakawa I, Urushitani M, Nakamura K, Yoshida K, Shimohata T.	Clinical features and neuroimaging findings of neurophil antibody-positive idiopathic sporadic ataxia of unknown etiology	Cerebellum	(Online ahead of print)		2022
Nishida K, Sakashita K, Yamasaki H, Futamura N.	Impact of tracheostomy invasive ventilation on survival in Japanese patients with multiple system atrophy	Parkinsonism Relat Disord	97	107-111	2022
坂下建人, 西田勝也, 二村直伸	気管切開後および人工呼吸器装着後の多系統萎縮症患者の長期予後	難病と在宅ケア	27 (7)	58-60	2022
安藤匡宏	RFC1 遺伝子関連スペクトラム障害と小脳性運動失調	BRAIN and NERVE	74 (11)	1273-1279	2022
Masahiro Ando Ando M, Higuchi Y, Yuan JH, Yoshimura A, Higashi S, Takeuchi M, Hobara T, Kojima F, Noguchi Y, Takei J, Hiramatsu Y, Nozuma S, Sakiyama Y, Hashiguchi A, Matsuura E, Okamoto Y, Nagai M, Takashima H.	Genetic and clinical features of cerebellar ataxia with RFC1 biallelic repeat expansions in Japan	Front Neurol	10	952493	2022

Masahiro Ando Ando M, Higuchi Y, Yuan J, Yoshimura A, Taniguchi T, Kojima F, Noguchi Y, Hobara T, Takeuchi M, Takei J, Hiramatsu Y, Sakiyama Y, Hashiguchi A, Okamoto Y, Mitsui J, Ishiura H, Tsuji S, Takashima H.	Comprehensive Genetic Analyses of Inherited Peripheral Neuropathies in Japan: Making Early Diagnosis Possible	Biomedicines	10(7)	1546	2022
Yuan JH Yuan JH, Higuchi Y, Ando M, Matsuura E, Hashiguchi A, Yoshimura A, Nakamura T, Sakiyama Y, Mitsui J, Ishiura H, Tsuji S, Takashima H.	Multi-type RFC1 repeat expansions as the most common cause of hereditary sensory and autonomic neuropathy	Front Neurol	13	986504	2022
Yoshihisa Takiyama Shimozono K, Nan H, Hata T, Saito K, Kim Y-J, Nagatomo H, Ohtsuka T, Koizumi S, Takiyama Y.	Ubp1 knock-in mice reproduced the phenotype of SPG80	J Hum Genet	67 (12)	679-686	2022
Yoshihisa Takiyama	The clinical and molecular spectrum of ZFYVE26-associated hereditary spastic paraplegia: SPG15	Brain	146(5)	2003-2015	2023
Yoshihisa Takiyama	A heterozygous GRID2 mutation in autosomal dominant cerebellar ataxia	Hum Genome Var	9 (1)	27	2022
Yoshihisa Takiyama	A clinical and genetic study of SPG31 in Japan	J Hum Genet	67 (1)	421-425	2022
Kanatani Y, Sato Y, Nemoto S, Ichikawa M, Onodera O.	Improving the Accuracy of Diagnosis for Multiple-System Atrophy Using Deep Learning-Based Method	Biology (Basel)	11(7):951	1-16	2022
Sakamoto M, Iwama K, <u>Sasaki M</u> , ら	Genetic and clinical landscape of childhood cerebellar hypoplasia and atrophy	Genet Med	24	2453-2463	2022
佐々木征行	運動異常症を主体とした神経難病	BRAIN and NERVE	74(6)	789-93	2022
Okamoto K, Takeda A, Hatsuta H, Sano T, Takao M, Ohsawa M, Miki Y, Nakamichi K, Itoh Y.	An autopsy case of progressive multifocal leukoencephalopathy with massive iron deposition in juxtacortical lesions	Neuropathology	(Online ahead of print.)		2022

春山幸志郎, 川上途行, 宮井一郎, 藤原俊之	COVID-19 パンデミックが脊髄小脳変性症および多系統萎縮症患者の心身機能・活動・参加に及ぼす影響	Jpn J Rehabil Med	59(7)	714-724	2022
Funato T, Hattori N, Yozu A, An Q, Oya T, Shirafuji S, Jino A, Miura K, Martino G, Berger D, Miyai I, Ota J, Ivanenko Y, Avella A, Seki K	Muscle synergy analysis yields an efficient and physiologically relevant method of assessing stroke	Brain Communications	4(4)	fcac200	2022
Haruyama K, Kawakami M, Miyai I, Nojiri S, Fujiwara T	COVID-19 pandemic and the international classification of functioning in multiple system atrophy: a cross-sectional, nationwide survey in Japan	Scientific Reports	12(1)	14163	2022
Zhang X, Takeuchi T, Takeda A, Mochizuki H, Nagai Y.	Comparison of serum and plasma as a source of blood EVs: elevated levels of platelet-derived particles in serum confer difference from plasma	PLoS One	17(6)	e0270634	2022
Takeuchi T, Nagai Y.	Emerging roles of extracellular vesicles in polyglutamine diseases: mutant protein transmission, therapeutic potential, and diagnostics	Neurochem Int	157	105357	2022

令和 5 年 4 月 3 日

国立保健医療科学院長 殿

機関名 国立大学法人新潟大学

所属研究機関長 職 名 学長

氏 名 牛木 辰男

次の職員の令和4年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業

2. 研究課題名 運動失調症の医療水準、患者 QOL の向上に資する研究班

3. 研究者名 (所属部署・職名) 脳研究所・教授

(氏名・フリガナ) 小野寺 理・オノデラ オサム

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	新潟大学	<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

国立保健医療科学院長 殿

機関名 北海道大学

所属研究機関長 職名 総長

氏名 寶金清博

次の職員の令和4年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業

2. 研究課題名 運動失調症の医療水準、患者 QOL の向上に資する研究班

3. 研究者名 (所属部署・職名) 大学院医学研究院・教授

(氏名・フリガナ) 矢部 一郎・ヤベ イチロウ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	北海道大学	<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

国立保健医療科学院長 殿

機関名 国立大学法人東北大学

所属研究機関長 職 名 総長

氏 名 大野 英男

次の職員の令和4年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業

2. 研究課題名 運動失調症の医療水準、患者 QOL の向上に資する研究班

3. 研究者名 (所属部署・職名) 大学院医学系研究科・教授

(氏名・フリガナ) 青木 正志・アオキ マサシ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input checked="" type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称：ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	東北大学	<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

新指針制定前であったため、旧指針に基づき審査承認を得て継続実施中

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (有の場合はその内容: 研究実施の際の留意点を示した。)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和5年3月8日

国立保健医療科学院長 殿

機関名 国立大学法人群馬大学

所属研究機関長 職 名 学長

氏 名 石崎 泰樹

次の職員の令和4年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業

2. 研究課題名 運動失調症の医療水準、患者 QOL の向上に資する研究班

3. 研究者名 (所属部署・職名) 大学院医学系研究科 教授

(氏名・フリガナ) 池田 佳生・イケダ ヨシオ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	群馬大学	<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和 5年 1月 12日

国立保健医療科学院長 殿

機関名 国立大学法人東京医科歯科大学

所属研究機関長 職 名 学長

氏 名 田中 雄二郎

次の職員の令和4年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業
2. 研究課題名 運動失調症の医療水準、患者 QOL の向上に資する研究班
3. 研究者名 (所属部署・職名) 東京医科歯科大学病院 ・ 教授
(氏名・フリガナ) 石川 欽也 ・ イシカワ キンヤ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	東京医科歯科大学	<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和5年3月8日

国立保健医療科学院長 殿

機関名 国立大学法人千葉大学

所属研究機関長 職名 学長

氏名 中山 俊憲

次の職員の令和4年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業

2. 研究課題名 運動失調症の医療水準、患者 QOL の向上に資する研究班

3. 研究者名 (所属部署・職名) 大学院医学研究院・教授

(氏名・フリガナ) 桑原 聡・クワバラ サトシ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	千葉大学	<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和5年3月9日

国立保健医療科学院長 殿

機関名 国立精神・神経医療研究センター

所属研究機関長 職 名 理事長

氏 名 中込 和幸

次の職員の令和4年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業

2. 研究課題名 運動失調症の医療水準、患者 QOL の向上に資する研究班

3. 研究者名 (所属部署・職名) 病院・特命副院長・脳神経内科診療部長

(氏名・フリガナ) 高橋 祐二・タカハシ ユウジ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	国立精神・神経医療研究センター	<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

国立保健医療科学院長 殿

機関名 国立大学法人東京大学

所属研究機関長 職名 学長

氏名 藤井 輝夫

次の職員の令和4年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業

2. 研究課題名 運動失調症の医療水準、患者 QOL の向上に資する研究班

3. 研究者名 (所属部署・職名) 医学部附属病院脳神経内科・教授

(氏名・フリガナ) 戸田 達史・トダ タツシ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	東京大学	<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。

・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和 5 年 4 月 12 日

国立保健医療科学院長 殿

機関名 横浜市立大学

所属研究機関長 職 名 学長

氏 名 相原 道子

次の職員の令和4年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業

2. 研究課題名 運動失調症の医療水準、患者 QOL の向上に資する研究班

3. 研究者名 (所属部署・職名) 大学院医学研究科・教授

(氏名・フリガナ) 田中 章景・タナカ フミアキ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	横浜市立大学	<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

国立保健医療科学院長 殿

機関名 学校法人藤田学園 藤田医科大学

所属研究機関長 職 名 学長

氏 名 湯澤 由紀夫

次の職員の令和4年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業

2. 研究課題名 運動失調症の医療水準、患者 QOL の向上に資する研究班

3. 研究者名 (所属部署・職名) 医学部脳神経内科学・教授

(氏名・フリガナ) 渡辺 宏久 ワタナベ ヒロヒサ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	藤田医科大学	<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

国立保健医療科学院長 殿

機関名 国立大学法人東海国立大学機構

所属研究機関長 職 名 名古屋大学大学院医学系研究科長

氏 名 木村 宏

次の職員の令和4年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業
2. 研究課題名 運動失調症の医療水準、患者 QOL の向上に資する研究班
3. 研究者名 (所属部署・職名) 名古屋大学大学院医学系研究科・教授
(氏名・フリガナ) 勝野 雅央・カツノ マサヒサ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	名古屋大学	<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

国立保健医療科学院長 殿

機関名 国立大学法人東海国立大学機構

所属研究機関長 職 名 機関長

氏 名 松尾 清一

次の職員の令和4年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業
2. 研究課題名 運動失調症の医療水準、患者 QOL の向上に資する研究班
3. 研究者名 (所属部署・職名) 岐阜大学大学院医学系研究科脳神経内科学分野・教授
(氏名・フリガナ) 下畑 享良・シモハタ タカヨシ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	岐阜大学大学院医学系研究科 医学研究等倫理審査委員会	<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

国立保健医療科学院長 殿

機関名 国立大学法人信州大学

所属研究機関長 職 名 学長

氏 名 中村 宗一郎

次の職員の令和4年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業
2. 研究課題名 運動失調症の医療水準、患者 QOL の向上に資する研究班
3. 研究者名 (所属部署・職名) 医学部・特任教授
(氏名・フリガナ) 吉田 邦広 (ヨシダ クニヒロ)

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	信州大学医倫理委員会	<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

国立保健医療科学院長 殿

機関名 国立大学法人広島大学

所属研究機関長 職 名 学長

氏 名 越智 光夫

次の職員の令和4年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業
2. 研究課題名 運動失調症の医療水準、患者 QOL の向上に資する研究班
3. 研究者名 (所属部署・職名) 医系科学研究科・教授
(氏名・フリガナ) 丸山 博文・マルヤマ ヒロフミ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

国立保健医療科学院長 殿

機関名 独立行政法人国立病院機構
兵庫中央病院
所属研究機関長 職 名 院長
氏 名 藤原 英利

次の職員の令和4年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業
2. 研究課題名 運動失調症の医療水準、患者 QOL の向上に資する研究班
3. 研究者名 (所属部署・職名) 統括診療部・脳神経内科診療部長
(氏名・フリガナ) 二村 直伸・フタムラ ナオノブ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	独立行政法人国立病院兵庫中央病衣 倫理委員会	<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和5年3月10日

国立保健医療科学院長 殿

機関名 国立大学法人鳥取大学

所属研究機関長 職名 学長

氏名 中島 廣光

次の職員の令和4年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業

2. 研究課題名 運動失調症の医療水準、患者 QOL の向上に資する研究班

3. 研究者名 (所属部署・職名) 医学部・教授

(氏名・フリガナ) 花島 律子・ハナジマ リツコ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	鳥取大学	<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

国立保健医療科学院長 殿

機関名 徳島大学

所属研究機関長 職 名 学 長

氏 名 河 村 保 彦

次の職員の令和4年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業
2. 研究課題名 運動失調症の医療水準、患者 QOL の向上に資する研究班
3. 研究者名 (所属部署・職名) 大学院医歯薬学研究部・教授
(氏名・フリガナ) 和泉 唯信・イズミ ユイシン

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

国立保健医療科学院長 殿

機関名 国立大学法人 鹿児島大学

所属研究機関長 職 名 学長

氏 名 佐野 輝

次の職員の令和4年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業

2. 研究課題名 運動失調症の医療水準、患者 QOL の向上に資する研究班

3. 研究者名 (所属部署・職名) 大学院医歯学総合研究科・教授

(氏名・フリガナ) 高嶋 博・タカシマ ヒロシ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

国立保健医療科学院長 殿

機関名 国立大学法人 山梨大学

所属研究機関長 職 名 学長

氏 名 島田 眞路

次の職員の令和4年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業

2. 研究課題名 運動失調症の医療水準、患者 QOL の向上に資する研究班

3. 研究者名 (所属部署・職名) 大学院総合研究部医学域神経内科・医学研究員

(氏名・フリガナ) 瀧山 嘉久・タキヤマ・ヨシヒサ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	山梨大学	<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

国立保健医療科学院長 殿

機関名 東海大学

所属研究機関長 職名 学長

氏名 山田 清志

次の職員の令和4年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業

2. 研究課題名 運動失調症の医療水準、患者 QOL の向上に資する研究班

3. 研究者名 (所属部署・職名) 医学部・教授

(氏名・フリガナ) 金谷 泰宏 (カナタニ ヤスヒロ)

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	国立精神・神経医療研究センター	<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

国立保健医療科学院長 殿

機関名 国立精神・神経医療研究センター

所属研究機関長 職 名 理事長

氏 名 中込和幸

次の職員の令和4年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業

2. 研究課題名 運動失調症の医療水準、患者 QOL の向上に資する研究班

3. 研究者名 (所属部署・職名) 病院 小児神経診療部・小児神経診療部長

(氏名・フリガナ) 佐々木征行・ササキマサユキ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和5年4月3日

国立保健医療科学院長 殿

機関名 国立研究開発法人
国立精神・神経医療研究センター

所属研究機関長 職 名 理事長

氏 名 中込和幸

次の職員の令和4年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業

2. 研究課題名 運動失調症の医療水準、患者 QOL の向上に資する研究班

3. 研究者名 (所属部署・職名) 病院 臨床検査部・部長

(氏名・フリガナ) 高尾昌樹・タカオマサキ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	国立精神・神経医療研究センター・公益財団法人脳血管研究所附属美原記念病院	<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称：)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由：)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関：)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由：)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (有の場合はその内容：研究分担者に法人がはいっているの、当該法人の利益を優先することのないように指示があった)

国立保健医療科学院長 殿

機関名 社会医療法人大道会 森之宮病院

所属研究機関長 職 名 理事長・院長

氏 名 大道 道大

次の職員の令和4年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業

2. 研究課題名 運動失調症の医療水準、患者 QOL の向上に資する研究班

3. 研究者名 (所属部署・職名) 神経リハビリテーション研究部・部長

(氏名・フリガナ) 宮井 一郎・ミヤイ イチロウ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	大道会森之宮病院	<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。

国立保健医療科学院長 殿

機関名 近畿大学

所属研究機関長 職 名 学長

氏 名 細井 美彦

次の職員の令和4年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業
2. 研究課題名 運動失調症の医療水準、患者 QOL の向上に資する研究班
3. 研究者名 (所属部署・職名) 医学部脳神経内科・ 主任教授
(氏名・フリガナ) 永井 義隆 ・ ナガイ ヨシタカ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	近畿大学医学部	<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称: 遺伝子組換え生物等の使用等の規制による生物の多様性の確保に関する法律)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	近畿大学医学部	<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。